令和5年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市淀老人福祉センター

1 施設の管理運営

<p>【開所日及び開所時間等】 月曜日～土曜日 午前9時から午後5時</p> <p>【閉所日】 日曜日、祝日、振替休日、12月29日～1月3日</p> <p>【管理業務】 (1)窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等） (2)施設の維持管理（館内清掃、開館・閉館業務、遺失物・拾得物の管理） (3)消防設備定期点検 (4)開所・閉所時の安全点検</p> <p>【サービス向上のための取組】 (1)職員の資質向上のための研修 (2)老人福祉センター利用案内（淀老人福祉センターだより）の作成 (3)施設・備品の団体利用についての規則を明確化 (4)苦情解決体制の整備と苦情事例の活用 (5)安全確保のための事故報告書等の事例共有</p> <p>(参考) 今後実施予定の指定管理者提案内容 京都市とも連携をはかりながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。</p>

2 事業実施内容

<p>(1) 教養教室事業 趣味の活動を生かした生きがいづくりや同世代同士の交流、社会参加のきっかけの場として教養教室事業を実施した。 年度末 11教室（運動系のニーズが高いことから新メニューのヨガ教室を開講。）</p> <p>(2) 高齢者自主活動支援事業 高齢者がグループで自主的に取り組み、その活動が円滑に進められるように支援してきた。 年度末 16同好会（年度内に会員の高齢等の理由により2同好会が解散。）</p> <p>(3) 介護予防事業 伏見地域介護予防推進センターと連携し、フライン体操教室（月1～2回）を支援・実施した。</p> <p>(4) 自由参加事業 ①ぬり絵サロン 誰でも気軽に参加でき、閉じこもりがちな高齢者が仲間をつくる場所として、月1回実施した。 ②ネットトラブル防止対策講座 偽サイト・詐欺サイトなどを疑似体験していただき、その対処法を学んでもらうスマホ安全教室を警察との連携で実施した。</p> <p>(5) 世代間交流 新型コロナの影響で近隣の保育園や児童館との交流が実施できなかった。</p> <p>(6) 地域福祉団体への支援・連携 老人クラブ連合会、民生児童委員協議会、老人福祉懇談会などの会議や事業の活動場所として、部屋を提供した。</p>

3 サービス提供状況

<p>施設管理兼事業担当者 所長1名 嘱託1名 アルバイト3名（職員休暇時等に依頼）</p>
--

4 市内中小企業への発注に対する考え方

<p>特殊設備等の保守管理以外は市内中小企業を活用し、見積もり合わせを行い発注する。</p>
--

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

9,972 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 293日)

(3) 収支実績

ア 令和5年度収入状況 (単位: 円)

委託料	8,705,139
その他	81,557
収入計	8,786,696

イ 令和5年度支出状況 (単位: 円)

人件費	6,054,788
事業費	2,012,673
委託費	238,450
小額修繕費	43,175
その他	0
支出計	8,349,086

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

令和5年度は利用者アンケートを実施していないが、講師や世話人から適宜意見を聞き取った。

(2) 利用者満足度把握の結果

令和4年度に作品展を実施したことから、令和5年度には舞台発表会も実施したいとの希望意見が多くあった。

(3) 意見等への主な対応状況

令和6年3月に発表会として作品展だけでなく舞台発表会も実施した。利用者だけでなく近隣の多くの住民や発表者の友人・知人達が鑑賞された。

7 評価 (指定管理者自己評価)

高齢者の方々が健康や老化の防止だけでなく、住み慣れた地域で仲間づくりや社会参加のきっかけづくりの身近な施設になるように、利用者の方々からの意見や希望を聞きながら運営してきました。

会員の高齢等により廃止となった同好会がありましたが、広報紙などを活用して既存の教室・同好会の増員活動を行い、施設利用者数は、令和2年度4,503名、令和3年度4,182名、令和4年度7,504名でしたが、令和5年度には9,972名まで回復しました。

特に、運動系の教室や同好会は参加希望者が多く待機者がいることから、講師の方々とは相談し、ヨガ教室については新メニューの別教室が発足しました。

また、地域の関係機関や団体である老人クラブ連合会、民生児童委員協議会、老人福祉懇談会などの会議や事業の場所として会議室の提供を行い、地域の高齢者の「生きがいづくり」の拠点として、一定の役割を果たしました。

収支については、物価の上昇等により物品購入費などの経費が増加したものの、修繕費が低額であったことなどから黒字となり、バランスを保つことができました。

令和6年度には隣接する児童館の子ども達との世代間交流や利用者から希望がある女性コーラス同好会の発足を計画しており、従前以上のセンター利用者数が見込まれ、当センターの設置価値がより高まるものと思われま。